

1. 評価結果概要表

平成19年 12月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	2071900050		
法人名	医療法人 緑風会		
事業所名	グループホーム桃源郷		
所在地	長野県東御市祢津323-3番地 (電話) 0268-64-6450		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(19年 9月 20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤10人	非常勤1人 常勤換算7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	円	月額 30,000 円

(4) 利用者の概要 (9月 20日 現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1		要介護2	3名			
要介護3	3名	要介護4	2名			
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	80 歳	最低	63 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	祢津診療所
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長野県の浅間山麓ふもとの田園地帯の静かな所で、上信越自動車道の東部湯の丸ICから5分の所に位置し、回りは住宅が広がってきている。建物は、平屋の瓦屋根で民家を思わせる落ち着いた雰囲気である。隣の畑では色々な野菜が作られ、利用者の励みである。地元の小・中・高校生、また、東京の郁文館中学など子供たちのボランティアが毎年訪問してくれ、利用者も待ち遠しいようである。地区の回覧板が回ってくる事は、利用者にとっては自宅に居たときと同じ落ち着いた暮らしの維持に役立っていると思われる。母体である法人の診療所・老人保健施設が併設されており、24時間体制で緊急時の対応が受けられることは、利用者・家族も安心できるホームと言える。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画は3ヶ月或いは、状態変化により随時見直しが行われていた。また、栄養バランスは、法人の管理栄養士に月1回メニューを覗いて頂き助言を得るなど、改善された取り組みが窺えた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員による自己評価は行われておらず、改善点の気付きのためにも、定期的に自己評価に取り組み、サービスの質の向上に繋げることが望ましい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議での提案により、区費・常会費を納め、広報紙・回覧の配布など地域の利用者にとって地域の情報が何より住み慣れたところにいる安心感に繋がると思われる。ただ、1回開いたに留まっているため、今後定期的に開き、活発な意見交換されることが望ましい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会が頻繁であり、いつでも気軽に声を掛けられる雰囲気作りに心がけている。家族会も年4回開き、大勢の参加により交流会が行われ、なごやかの中でも意見を聞くなどし、サービスの向上に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員が地区の防災訓練に参加したり、ホームの災害訓練に地区の消防団の参加が得られ、協定も結ばれており地域の協力体制は出来ている。回覧板が回ってくることにより、自治会の行事にも参加しやすく、地域にとけ込んだ生活が出ていることはありがたく、地域との連携はいつでも取れていると言える。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設して3年目であるが、地域密着型として“地域と「共にある」こと 地域の一員として暮らす事をめざす”を独自の理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週1回のカンファレンス、月1回の全体会議で理念を復唱し、理念の共有に努め、実践に向けたケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費・常会費も払い、地域の一員として回覧板も回り、地域の行事や行事などにも自由に参加でき、自宅の時と同じ生活リズムが保たれている。近くの小学校の運動会に招かれたり、小・中学生や高校生のボランティアとして年3回の訪問があるなど、地元との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は2度目であり、前回の評価結果について全体会議で検討され、改善点の見直しを行い、ケアの向上に取り組んでいる。	○	職員全員による自己評価は行っていない。職員の気付きの為にも定期的に自己評価を行うことが望ましい。

グループホーム桃源郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの説明・状況報告をおこない、地域の防災訓練に参加したり、ホームの災害訓練に地区の消防団が参加してくれるなど、協定も結ぶことが出来、地域との関係が一層深まった。	○	運営推進会議は今までに1回しか開かれておらず、今後定期的に関き、地域に根ざしたサービスの更なるケアの向上に取り組まれる事が望ましい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から委託された介護相談員が2ヶ月に1回訪問し、情報交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会は頻繁であり、面会時には声掛けをし日頃の様子を伝えている。変化が生じたり面会が遠のいたりしたときには、電話で報告をしている。家族会も年4回開き交流も行われている。お金は原則的には立て替え払いで、利用料金と一緒に請求している。お預かりしている人については、金銭出納帳を面会時にお見せし、確認印を頂いている。	○	便りが年1回発行されているが、四季折々ぐらいを目途に発行したり、一言のコメントでも請求書の郵送時に添えられることが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱が設置されている。家族の面会が頻繁であり、声を掛けやすい雰囲気作りに心がけている。家族会も年4回開き交流を深めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定年などにより職員の交代が分かっているときには、少し前から新しい職員もホームに訪問し利用者との関係づくりに心がけている。家族には、法人全体の広報紙で知らせている。		

グループホーム桃源郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人全体の内部研修があり、ケアの質の向上に努めている。外部研修に参加後は報告会を開き、職員全員で共有できる体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回地域のグループホーム同士の勉強会に参加し、情報交換など行なっている。ネットワークづくりにも積極的に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内で隣のグループホームに通所サービスの受け入れがあり、ホームに馴染んでから空き状況にもより、どちらかのホームで受け入れ検討出来る体制が出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から沢山のことを教えていただき、共に支え合っている生活が窺えた。干し柿の上手なつるし方など調査員にも教えていただいた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望する暮らしが出来るよう、本人・家族から情報収集し、思い思いの物が持ち込まれ趣味で絵を書く人、テレビがついていないと落ち着かない人、カラオケが好きでいつでも歌が唄えるようセットされているなど自由な暮らしが窺えた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時などに意見を聞き、日頃の様子も含め週1回のカンファレンスで検討し、日々の生活が生き生き出来るような支援の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日頃気付いたことは、見直し用紙に記載し、職員全員で3ヶ月に1回介護計画を見直している。また、状態の変化が生じたときには、随時見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ法人である隣のホームでは通所の利用者がおり、希望と空き状況によりどちらかのホームと利用契約を結ぶ事が出来る体制がある。法人内の理学療法士による訪問リハを週1回受け、機能低下防止に努めている。状態変化に応じて訪問看護も受けられる。		

グループホーム桃源郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内に内科・精神科・歯科があり、月に1回定期的に受診している。緊急時には24時間体制で往診も受けられる。同じ法人で隣のホームには看護師が常駐しており、急変時には主治医と連携を図り、適切な支援が得られる。ホームで訪問看護により点滴を受け、流動食から普通食を食べられるようになった方がいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内に老健・診療所もあり、利用契約時にはターミナルについて希望の聞き取りされているが、状態変化の都度主治医・家族・職員で話し合いを行い方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた声のトーンに配慮し、声掛けがされていた。個人情報保護に掲げていることが守られている事が窺えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活に決まり事もなく、個々にやりたい事を自由に出来る環境作りがされており、のびのびと生活出来るよう支援が行われていた。		

グループホーム桃源郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	収穫した野菜を使うなどし、その日のメニューは利用者と相談しながら決め、買い物に出かけたり、食事の準備・片づけなど一人ひとりの力量に合わせ職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には週2回であるが、畑の作業の後などその状況に応じて、シャワー浴をして頂いたり、希望の時間にゆっくり入れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの聞き取りや、生活歴などを参考にし、趣味・楽しみごとなどいつでも力量発揮出来るよう配慮されている。	○	生活歴の聞き取りはされているが、誰が見ても分かるように整理して記録されることが望ましい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調により、1日何回かホームの周辺を散歩したり、買い物・ドライブ・外食、また、年間行事を立て外出の機会を設けている。散歩の帰りに同じ法人で隣のホームに立ち寄るのが楽しみで、どちらが住人か分からないくらい交流をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。外に出てしまうようなときには、素早く察知し、声を掛けたり、後から付いて行き、否定せず見守りが行われている。		

グループホーム桃源郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回地域の消防団の協力も得ながら、災害訓練を実施している。地区の防災訓練にも参加するなど、地域との連携体制は出来ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量は記録されており、献立も月に1回法人の管理栄養士に見て貰っている。個々の身体の状態により、刻み・ミキサー食などで対応もされている。流動食から普通食になるまでの支援も行われた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の外には、お友達同士で過ごすことが出来るように椅子が用意されていた。中庭を囲むように回廊式の廊下になっているため、建物全体に明るい。畳敷きの居間にはテレビがあり、食事の後は居間でテレビを観ながら食休みをされている様子が窺えた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの筆筒・机・テレビ・炬燵・仏壇・カラオケの器具など自由に持ち込まれ、一人ひとりが落ち着いたお部屋づくりされており、居心地の良さが感じられた。また、お箸や湯飲みなども個々の使い慣れた物で、会話が弾んだ食事が窺えた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。